

第7回武蔵野市産業振興審議会専門部会会議録

【審議会概要】

日時	令和6年1月11日（木） 15:00～17:00
場所	武蔵野市役所 812 会議室
出席委員	福田敦会長、生駒耕示副会長、安藤孝委員、高橋勉委員、浅川絢子委員、平湯友子委員、石渡志津委員、田川良太委員 (欠席) 瀧上佳子委員
事務局	吉崎産業振興課長、尾崎経済対策調整担当課長、庄司係長、北村まちの魅力向上担当係長、藤木主任
専門部会 次第	1 開会 2 議題 (1) 報告事項 ア 第6回武蔵野市産業振興審議会専門部会会議録（要旨） イ パネル展示及びパブリックコメント実施報告 (2) 討論 ア パブリックコメントへの対応について イ 第三期武蔵野市産業振興計画 答申（案）について (3) その他 3 閉会
配付資料	次第 ・資料1 第6回武蔵野市産業振興審議会専門部会会議録 ・資料2 計画素案へのパブリックコメント対応（案） ・資料3 第三期武蔵野市産業振興計画 答申（案）

【議事】

- 1 開会
 - ・配布資料の確認

- 2 議題
 - (1) 報告事項
 - ア 第6回武蔵野市産業振興審議会専門部会会議録（要旨）
資料1について事務局より説明
 - イ パネル展示及びパブリックコメント実施報告
資料3を用いて事務局より説明

 - (2) 討論
 - ア パブリックコメントへの対応について
資料2について事務局より説明

会長	パネル展示とパブリックコメント実施報告に関するご意見・感想があればお願いしたい。
委員	パブリックコメントの複数の意見を見て、食育活動に熱心に取り組んでいただいていることを知った。学校給食への市内産農作物の使用についての記述を追記するとのことだが、「食育」という言葉を使った方がよいのではないか。
事務局	食育は本計画の下位計画である農業振興基本計画でも強く謳っており、学校教育だけでなく食育に力を入れていくという方針はこれまでと変わらない。本計画では「食育」という単語をあまり使用していない。

委員	答申（案）12頁と33頁の都市農業に関するコラムで学校給食に関する記載があるので、食育の話を入れ込んでどうか。ただしコラムでは弱いかもしれない。
事務局	ご意見を踏まえて追記すべき箇所を検討する。食育は庁内では健康課が主管部署になるが、産業振興においても農業という視点から記載を検討したい。

イ 第三期武蔵野市産業振興計画 答申（案）について
資料3について事務局より説明

会長	専門部会としての取りまとめは本日が最後になる。答申（案）やその他お気づきの点について、お一人ずつご意見・感想をお願いしたい。
委員	<p>昨年12月に事務局から武蔵野市商店会連合会に配付された素案資料を、役員会で2回に分けて4時間かけ議論したところ、細かいところで様々な意見が出されたため、事務局に文章化して伝えた。結果的に一人で判断するよりも良かった。これまでも専門部会の内容を持ち帰り、商連の中で議論してから次の部会で発言すれば良かったかもしれない。</p> <p>商連での議論では、答申（案）34頁の「方針2 地域や学生等と連携して創る産業振興」に引っ掛かりを感じていた。商店会事業に対してなぜ学生が前面に出てくるのかという意見や、文言を関連施策6にある「地域の活力やにぎわいを生み出す産業振興」に変えて欲しいという意見が出された。</p> <p>私自身はここ数年で、地域の小中学生が商店街に対してしっかりとしたいや考えを持っていることに気づいた。6～10年をまちで過ごし、地域と共に成長する子ども達の意見は鋭く突いてくることがあり、子ども達の意見をしっかりと積み上げていくことが刺激になっている。「学生等」とあるが、小中学生も含めた子ども達の意見は重要視していきたい。</p> <p>パブリックコメント対応の資料に、イベントが地域のブランドになればよいという意見（連番2）があるが、地域毎に行われている様々なイベントは既に地域のブランドとなっている。それらを繰り返すことで地域の人にまちが元気な印象を与え、まちの発展につながっていると思うので、あえてブランドを立ち上げなくても良いのではないかと感じた。</p> <p>古い商店会の問題であるデジタル活用の弱さを解決したいという意見（連番30）は確かに時代に即した考えであるが、個人店の持ち味であるフェイス to フェイスでコミュニケーションが取れる商店街づくりも必要だと感じている。</p>
会長	方針2の「地域や学生等と連携し」という表現については、審議会でも意見が出された。市民等ワークショップに参加された方は、参加した学生の発言や着眼点を見て、学生等との連携の必要性を強く感じられたと思う。表現として「学生」という言葉が前に出過ぎているのであれば、「市民」などの表現に変えても良いのではないか。施策8で学生等との連携については言及されている。方針の文章表現は関連施策を全て反映して要約した表現ではないので難しいところではあるが、事務局内で再検討し、次回審議会で審議してはどうか。
委員	方針2は施策6～9を包含していると考ええると、方針の表現として「学生」が強く出ていて違和感がある。新規施策の一つであり、次のステップとしてこれからは学生等と連携していこうというニュアンスが良いのでは。
委員	<p>「学生」に引っ掛かりを感じたということは、それだけインパクトがあるということだろう。これが「市民」になって、さらっと読まれるともったいない。</p> <p>新しいものとの融合や、新しいものを見出すといった視点からは若者と学生はほぼイコールになっていく。</p> <p>まちで育つ子どもがまちに興味を持ち、学んで学生になり、まちの産業と連携</p>

	できるようになり、お互いに発展していく、というイメージが方針2の趣旨だろう。そういった新しい概念や思いを表現できればよい。
会長	施策の内容の一つとして登場する「学生」がその上位の方針の表現として強く出過ぎているのでは、という意見もあるし、インパクトの面で学生や若者という表現を残した方が良いという意見もある。内容ではなく、表現の問題である。事務局で意見はあるか。
事務局	個人的な意見ではあるが、「市民」とするとこれまでの方針とあまり変化がない。耳馴染みは良いが確かにインパクトは生まれないと感じた。
委員	あえて「学生」という言葉を使った方が武蔵野市らしさを感じる。武蔵野市の特徴の一つとして、五大学の学生を中心として様々な展開がされていて、各商店会の活動でも学生が活躍しているという点がある。
会長	学生“等”の中には、大学生（学生）、中高生（生徒）、小学生（児童）が含まれる。専門部会としては「学生等」の表現を残し、審議会に諮る。
委員	答申（案）29頁の「来街者」にのみ、あえて（市外から訪れる方）と説明を加えている理由は何か。以前の頁にある「来街者」には（ ）内の説明がない。
委員	答申（案）29頁の1段落目は、むしろ「来街者」という言葉を使わない方が、市外から来る方にも市民にも事業者にも魅力的、という意図が伝わりやすいのではないか。
事務局	意図を踏まえて修正する。
委員	住む人がそのまちを好きで楽しんでいると、自然とまちの外からも人は寄ってくる、という話がワークショップでもあった。人を呼ぶために何かするのではなく、自分達がまちを楽しむためにやる、ということを強調したい意図があると理解した。
会長	ただし、自分達だけが楽しむと言うような排他的な表現ではなく、まずは自分達が楽しみつつ、興味を持った人達が共鳴して参加できる機会が開放されているニュアンスだとなお良い。
委員	答申（案）32頁の3～4段落目は末尾の表現が「研究していきます」、「検討します」だが、既に取組んでいる内容も含まれる。エリアマップはデジタルマップの運用を開始しているので掘り下げて記述して欲しい。 令和6～10年の計画期間から考えると、インバウンドに対する来街者の対応についても、先を見越して書き込めると良い。令和6年1月からは外国人向けの街歩きガイドツアーも始まる予定だ。 答申（案）32頁の5段落目「農産物と連携した観光事業づくり」という表現は違和感があり、変えてもらいたい。 答申（案）38頁「①スポーツ活動・文化財等との連携検討」では、市内スポーツ支援への市民参加や、意識づけを強調したい。
事務局	委員のご意見を伺いながら、表現を調整していきたい。
委員	答申（案）32頁の2段落目の末尾は素案まで「武蔵野市観光機構との連携」だったが、答申（案）の段階で「連携を強化」に修正された理由が気になる。
委員	武蔵野市観光機構は当初、観光はまちが率先して取組むものという考えで設立され、行政はそれを支援する立場だったが、市としてもまちの魅力向上を目指し、力を入れて一緒に取組んでいこうとしているため「強化」という表現になった。
委員	専門部会での議論やアンケートの結果が、答申（案）25頁「4 つながる場の形成」に集約されている。つながりを推進する計画になったことが嬉しく、一市民としてもわくわくする計画になったと思う。 答申（案）24頁の各主体の役割や、25頁のプラットフォームの図では、市の存在が小さく感じる。デザインの問題かもしれないが、市がリーダーシップを取

	<p>って引っ張っていくように見えるとよい。</p> <p>若い人や現役世代が主体的に考えて自ら動くまちは魅力的だと思う一方で、例えば吉祥寺は来街者が多く集まるまちなので、個々の商店街等につながりがあっても、まち全体としての地元民の結束は薄いように感じている。つながる関係性に期待したいと改めて思った。</p>
会長	<p>プラットフォームの図は初めて見るとわかりにくいかもしれない。</p> <p>『弱い紐帯の強さ』という言葉がある。強い紐帯とは同じ価値観を持つ組織で、信頼関係があり繋がりも強いが、新しいアイデアが出づらく、異なる意見を言いにくい。逆に弱い紐帯は、普段は関わりのない人達が集まることで新しいアイデアが出てくる、という考えだ。自分達ができることを発見し潜在需要を実需に変えていく機会となるかどうかは、個別の参加者の意識に左右されるが、サポートする誰かがいれば実需に気付ける。参加することの意義は、多様な人達の目線を感じながら、弱い紐帯の中で様々な価値観や考えがある主体どうしが弱くつながっていく場を形成すること。これまであまり関わりがなかった人達が弱い紐帯として交流し関わることで、互いに発見がある。</p> <p>ただし弱い紐帯は組織立って動く力を備えていないので、全体の力を発揮していくことができるよう、後押しする場をプラットフォームとして形成したい。</p> <p>市の立ち位置は、全体との関わりを持つというイメージでも良いかもしれないが、見る人によっては印象が変わり、市が出過ぎているようにも見える。</p> <p>プラットフォームに入っていないと乗り遅れる、というのではなく、弱い紐帯にできるだけ多くの人に関われるようなイメージを出せば一番良いが、表現するのは難しい。</p>
委員	<p>様々な取組みはつながりの中で自然発生的に生まれるものではあるが、つながりの場を作ること自体は、誰かが先導しないといけないのではないかと思う。</p>
会長	<p>既に立ち上がっている「CO+LAB MUSASHINO」を基盤としつつ、うまく音頭を取り求心力を持って発展していくやり方が良い。核となるものは一つに限らず、それ以外に、インフォーマルな形のコミュニケーションもあるかもしれない。</p>
委員	<p>子どもや子ども連れが安心できるだけでなく、安心をベースに子どもがそのまちで育っていくことを応援される、というところまでレベルアップした内容になっている。子どもが優しく擁護されるだけでなく、子どもの権利が尊重され、対等に対話ができる環境で育っていくことが見えてくる文章がいくつもあり嬉しい。答申（案）5頁の文末が「子どもが地域社会と関わりをもって育つことの大切さを意識して取組んでいく必要があります。」で結ばれているのが良い。同様に、子どもが育つ、という文言を入れていくと良いと思う箇所が数か所ある。</p> <p>まず14頁②「子ども・子育て世代と創るまち」の二文目の終わりは、「“子どもが育ち”、子育て“世帯”が楽しめるという視点で～」にすると良い。</p> <p>36頁③のタイトルは「“子どもを育み”子どもの権利を尊重する事業者～」にしてはどうか。</p> <p>25頁のプラットフォームの図にある「学生等」は「学生・教育機関等」とすれば、子どもを育てる視点だとわかるのではないか。</p> <p>24頁「④市民の役割」とあるが、押し付けられると感じる。「市民の参画」や「事業者の参画」にしてはどうか。またプラットフォームに関して、市の役割として最も期待されているのは庁内の連携だと思うので、「⑤市の役割」において触れてもらいたい。特に、学校関係や福祉団体は異なる部署と連携していく必要がある。</p> <p>用語集は、巻末にあると読みづらい。重複したり文字が小さくなったりしても良いので、ページ内に脚注があると良い。</p> <p>56頁の市民等ワークショップについても、面白い意見がたくさん出されたの</p>

	で、ワークショップの記録が確認できる URL が記載されていると良い。
事務局	ページ内に脚注を入れるとボリュームが大きくなるので、用語集の掲載頁を記載するか、文章中に出てくる用語に通し番号を振るなどの工夫を検討する。
会長	生産性と付加価値は大きな課題である。安売りせず、価値が分かってもらえる人にきちんと評価してもらって対価を得る流れができると、他との差別化になる。事業者が武蔵野市らしい学生や子育て世代のニーズを意識して事業を展開できると、武蔵野市ならでは、になるのではないか。
委員	<p>計画にはこれからデザインが加わるのか。せっかく前例に囚われない柔らかい議論をしたので、デザインが入って計画も柔らかくなって欲しい。</p> <p>答申（案）34 頁について、「学生等」の言葉は耳に残るが、「中高生世代」という言葉は聞き馴染みがなく印象に残らない。大学生とだけ連携するようになってしまう。「学生、生徒、児童」と書かれていると、まちで育つ子どもと小さい時から関わりを持つことがより伝わる表現になるのではないか。</p> <p>また同頁 3 段落目の「今後は、本市の子ども子育て施策や環境施策などに参加している中高生世代との連携」は、既に連携している中高生のみが限定して関わられるように読める。37 頁に同じ文言があるが、こちらは具体的に施策として落とし込んである部分なので良いだろう。</p> <p>また 37 頁のコラムに「中高生世代」の文言が多数あり、気になった。</p> <p>専門部会でつながりやコミュニケーションを議論してきたが、パブリックコメントで一般市民の関心があまりに低かった。関心を持ってもらえるようにすることが根底の課題と感じた。そのために今できる事として、細かな表現を変えるだけでも、計画の印象は変わるのではないか。</p> <p>例えばパブリックコメントの対応（案）資料の連番 34 では、「今後も応援したいと思います。」というご意見に対し、市の対応案の「ご意見として承ります。」では硬い。もう少し柔らかい表現で市側からもコミュニケーションをしていたら、今後、パブリックコメント等の場が、市の政策に対して評価や応援が言える場になると思った。</p>
事務局	<p>パブリックコメントの対応について、応援するようなご意見には「ご意見として承ります。」だけでなく温かい言葉で回答するのも良いと思う。</p> <p>答申（案）34 頁の 3 段落目の「今後は、本市の～」は削除する。</p>
委員	<p>修正に関する意見はない。これからも引き続き頑張っていたきたい。先ほど弱い紐帯という言葉もあったが、確かに強い紐帯にいと新しい発想は出ない。このようなつながりが大切だと気づきをもたらしたよい機会だった。</p> <p>また、大震災やコロナ禍により産業は壊滅的な被害を受けた。安心・安全が産業振興のベースになると感じる。特に防災はスポットではなく面として取り組まなければならない。</p> <p>吉祥寺で「回遊性」などの言葉が言われているが、現状を後講釈してネーミングしても過去を振り返るだけで伸びしろはない。10～20 年先を見据えた理想の方向を示す言葉を開発して、そちらの方向に伸びしろを作らないと産業は発展しないのではないか、という感想を持った。</p>
会長	<p>他市と比べた計画の作り込み方の特徴についてお話すると、委員会では、非常によくできているが総花的であるというご意見があった。行政計画は総花的にならざるを得ない面があるが、重点的に取り組むことが明確になっておらずメリハリ感がない。</p> <p>また目標の設定について、具体的な数値目標を設定せず、73 頁に施策体系図と施策毎の担当課一覧を示した点は武蔵野市らしさである。悪い意味ではなく、具体的目標を立てるような喫緊の危機感はまだないという事かもしれない。</p> <p>最後に、施策や取組みをどうやって進めるのか、の部分がないと評価の軸が定まらにくく、「検討します」となっていると評価しづらいと感じた。</p>

事務局	今後は、本日の意見を踏まえて答申案を再修正し、2月8日の審議会で最終的な確認を行う。その後2～3月中に市長に答申し、3月中に計画を公表する予定である。追加のご意見があれば1月19日までに提出してほしい。
会長	本日の議事は終了とする。

3 閉会